

しゃべり場★REPORT35 2025.3.11

第13回貝塚公民館大会 に参加しました

年の差フレンズが未来をつくる

～今こそ全世代が手をつなぐとき～

「子どもの脳がつなぐ未来～シナプス可塑性から学ぶ、育ちと支え方～」

講師: 児島伸彦 東洋大学教授(埼玉在住・堺市出身)

令和7年2月2日(日)浜手地区公民館 参加140人



(講演要旨)

▶いろいろな世代との交流、コミュニケーションは、子どもたちの脳の発達を促し、高齢者の脳の老化を防ぐ役割があり、脳に良い。これは脳科学の研究から証明されている。

▶この脳のシナプスは幼児期に最も発達する。4歳がピーク。そして16歳～20歳の思春期。これらの時期に脳は飛躍的に発達する。しかしその発達には、適切な刺激・経験がとても重要。

▶確かに歳をとれば脳の機能は衰えるが、知識を得ることでシナプスは新たに形成されて行く。学び続けることにより脳は歳を取らないとも言える。

▶脳の機能の低下を遅らせる方法は他にもある。それは①運動 ②栄養 ③睡眠 ④コミュニケーションの4つである。これらは脳の活性化にとって、決定的に重要な手段である。

① **運動**: その人自身からやろうと思う、自発的な運動が大切。強制的にやらされる運動は脳の発達には繋がらない。運動によって、その運動自体の技術が向上するだけでなく、前頭前野の発達、ストレス発散、睡眠の質の向上などの効果もある。



- ② **栄養**: タンパク質・糖質・脂質の適度なバランスが大切なのはもちろんのこと、ビタミン類も脳の発達に重要。
- ③ **睡眠**: 睡眠中に脳の中で記憶の整理が行われる。必要なものは記憶として定着、必要ないものはゴミとして消去される。睡眠不足だと、これらの整理がうまく行われない。
- ④ **コミュニケーション**: 特に、世代を超えたコミュニケーションは、脳にとってとても大切。子どもたちの脳の発達を促し、老人の脳の老化を防ぐ役割がある。(山本記)

この日の講演内容、発表事例、アンケート結果、そして3月11日の第2弾 西川正さんによる「年の差フレンズが未来をつくる」の内容等をまとめた貝塚公民館大会報告集は、3月末に発行の予定です。

しゃべり場★公民館とは 発起人 朝日陽子

▶しゃべり場を始めた2012年より前に、公民館利用の有料化の噂がありました。そんな折、市のホームページで「貝塚市新生プラン」というものを見つけました。

▶これは、「人口減少等により歳入は減っていくので、ムダな歳出を見直そう」という内容(現在第3次プラン 令和3～7年度)で、「社会教育施設利用に関して受益者負担の見直し」という項目が気になりました。

▶このとき初めて、公民館有料化の噂にはちゃんと根拠があったことを知り、このことを利用者に周知したいと思いました。そのためにはまずは利用者が集う場を作りたい。そして公民館とは? 社会教育とは? を学ぶ場を作りたい。そう思って始めたのが「しゃべり場★公民館」でした。

しゃべい場★講座開催

「貝塚の身近な公共施設のこれからを聞いてみませんか？」

令和6年7月23日(火) 参加41名

令和6年8月27日(火) 参加33名

▶貝塚市行財政管理課公共施設マネジメント室の3名の職員の方に、公共施設の建て替え問題について「公共施設等総合管理計画」を元に詳しく説明していただきました。



▶市内各施設の設計寿命が迫り建て替えを検討するも、市の財政には限度がある。そこで、施設の長寿命化を図るために、保全修繕のコストバランスを見ながら適切な管理計画をつくり実施してゆく。また利用度や市民の意見を参考に、整理統合を進める。など主にハード面のお話でした。

▶アンケートには「今まで知らなかった貝塚の状況が聞けてよかった」「公民館などの施設は今のところ取り壊す予定はなく、修理をして使うと聞き安心しました」「もっと聞きたい」「難しい話で少しわかりにくかった」「意見交換の機会を作って」「市民への伝え方を工夫して」「ハコも大事だが中身も大事」などソフト面も含めた関心の高さがうかがえました。(馬場記)



▶今回の講座であらためて感じたことは「まちづくりの主体は市民である」ということ。そして市の課題は市だけではなく、大阪府の課題でもあり、日本の課題でもあるということ。視野を広げて、さまざまな社会課題と市民一人ひとりが向き合うことが大事であるということ。今回の講座でさらにそういった思いが強くなりました。講師の市役所職員の皆さん、講座当日だけでなく、2回にわたる打ち合わせにも参加していただき、ありがとうございました。(朝日記)

浜手クラブ訪問

「書道木曜会」

活動日:月2回木曜午後

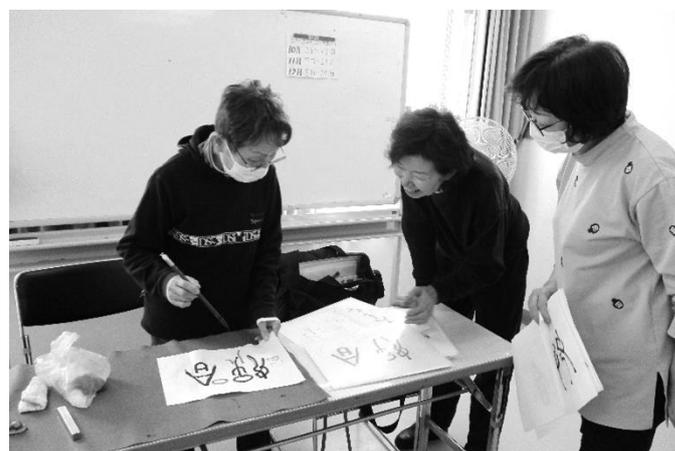


令和6年11月21日(木)参加 10名

▶結成して30年ほど。メンバーのクラブ歴は10年、3年、1年目とさまざまです。現在5名で以前と比べかなり減ってきたので、みんなで話し合い、講師に相談。回数を月3回から2回に減らしたり、部費を月1500円から2000円に上げたりしました。謝礼の問題は大きいと思います。クラブ員募集のために夏の子ども講座に参加。ふれあいまつりの展示では、きれいな表装をして見せ方を工夫しました。



▶以下クラブ員の感想です。「利連の役員になって初めて、いろいろ分かることができました」「クラブのみんなにもよく伝えるようになりました」「カルチャーセンターとは違う良さを知ることができました」「クラブに入ったきっかけは、安くて近いから」「書道経験がありますが、ここでは大きい展示会に出すなどのプレッシャーがないのがいいです」「仕事でのし紙を書いています。きれいにかけるようになりたいです」「家だといろいろ気が散りますが、クラブにくると、好きなこと、やりたいことに集中でき、充実した時間を過ごせます」(麻生川記)



山手クラブ訪問 「シルバー卓球」

活動日：第1～4火曜午後



令和6年12月10日(火) 参加18名
▶ “シルバー卓球”は10年前、別の卓球クラブが満員で、その入部待ちをしていた人たちが集まって発足しました。現在は25人が在籍、初心者・経験者関係なくクラブ員同士で教え高めあっています。
▶ さらに、「卓球だけでなく色々なことを目にしたい!」と、クラブの中から有志が集まって、様々な学びや地域貢献にも取り組んできました。例：貝塚市内を歩く、震災について話す、漢字検定に挑戦、放課後子ども教室のボランティアなど…



▶ クラブが10年以上続き、またクラブの中にとどまらず意欲的に活動できている背景には、「楽しいから続いている」「貝塚の文化を守りたい」「みんなで考えているから続く」とそれぞれの前向きな気持ちや互いを思う姿勢がありました。(市政記)



中央クラブ訪問 学習グループ連絡会 「第3土曜の会」

活動日：第3土曜午後



令和7年1月18日(火) 参加10名
▶ 1983年公民館主催講座「働く女性のための講座」開催(昼間)をきっかけに学びたいと、1984年自主グループ「働く女性の会」が発足しました。第3月曜より7時から人権問題、女性問題、平和、福祉、政治問題などを学習し、夏は宿泊研修会、冬は忘年会や新年会で親睦を深めてきました。
▶ 働くメンバーの減少で2006年「第3土曜の会」に改名、現在10名(内男性2名)で活動をしています。今も交代でテーマを決め、その人自身が調べ、学習し、発表しています。今年のテーマは「フレイル予防」「快眠について」「バナナについて」「ハラスメント」などでした。



▶ 「老後の幸せ」の学びから、長野県へ2泊3日の修学旅行やスウェーデン、デンマークへの視察旅行を2年間かけて実現。そのことが NPO 法人「わとわ」の結成へとつながり、活動が地域へ広がっています。また、『自分史』、『通信』とスウェーデン視察をまとめた『社会福祉と働く女性』を出版しました。



▶ ひとつのクラブが40年間も続いているのはすごい事だと思ったので、その秘訣を尋ねてみました。

① 毎回の発表の仕組みを工夫している。

たとえば

- ・団体内の役割を持ち回り制にしている
- ・発表者が内容を当日まで伏せているので、聞く側は意外性があり楽しい

② メンバー間の交流を大切にしている。

・各回の後半、会話を楽しんだり、お互いの悩みを話すことでストレス解消になる

・発表内容を記録して保存しているので、誰でも後から見返して参考にすることができる

・忘年会や新年会を開催し、親睦を深めている

▶生活のうえでの学びの実践講義を受けさせてもらった訪問になりました。(木村記)

中央公民館まつりに参加



令和6年5月25日(土)中央公民館まつり、土曜の野外を活用してしゃべり場ブースを開設しました。まつりに参加のクラブや団体が自分達の紹介をできる場とし、空いた時間には音楽を流しました。

紹介参加団体:「コスモ写真クラブ」、「貝塚ハーモニカクラブ」、「月曜絵画」、「どろんこ(陶芸)」、NPO法人「えーる」、「大人のHIPHOP チェケラッシュ」、「ホロホロウクレレ」、「アイナウクレレ」、「パンづくり」、「貝塚子育てネットワークの会」、「少年少女合唱団」、「太極拳」、「遊び隊」、「ワークサポートらぱん育成会」、まつり展示委員会、まつりバザー委員会、各公民館の案内など各団体から、活動内容や、クラブに入ったきっかけなどを話してもらい、まつりでの出演や出店のPRもできました。実際にその場でウクレレを弾いたり、ダンスを披露するクラブもあり、土曜の野外を賑やかに演出できました。令和7年度も中央公民館まつり土曜でしゃべり場ブースを実施する予定です。PRができるチャンス!ぜひご参加ください!

日程：令和7年5月24日(土)
中央公民館まつり しゃべり場ブース
詳細は追って発信します!

ー令和6年度しゃべり場の振り返りー

【できたこと・気づき】

- ▷楽しいこと、仲間づくり
- ▷来た人をお客さんにせず、巻き込む
- ▷「ここに来たら楽しい」から「次も来よう」と思う
- ▷「しんどいけど楽しい」は共同作業で解消できた
- ▷講座に参加した人が、その中で聴いた自分の関心のある部分だけでも他の人に伝えることが大事
- ▷自分の活動と社会とのつながりに気づくしかけが必要
- ▷参加し続けないと、話についていけない



【これからしたいこと】

- ▷会議の定例化
- ▷公民館の運営、ソフト面を学ぶ講座を企画する
- ▷しゃべり場カフェをする
- ▷広報・PRした後に、検証作業を加える
- ▷市民の問題意識を受け止める機会をつくる
- ▷大切なことに気付けるような「しゃべり場」にしたい

しゃべり場★公民館のミーティングには
誰でも参加できます!
興味のあるかたはお近くの公民館まで

お問い合わせは下記の各公民館までどうぞ
中央公民館 072-433-7222
浜手地区公民館 072-431-0926
山手地区公民館 072-446-0090

しゃべり場★REPORT No. 34

しゃべり場★公民館の目的（R5年度～バージョン）

「貝塚公民館の価値を広める、高める～人のつながりは財産、命をつなぐ～」

※令和5年7月、メンバーで話し合い、これからの10年はつなげる仕掛け作りをしていきたいという思いで、目的の文言を新たにしました。

1/18 映画「公民館」鑑賞会 & 講座感想会 参加者 18人



映画「公民館」とは・・・1970年代に当時の文部省が作成。公会堂時代の貝塚公民館と女子高等学院、西宮市の公民館を紹介した約30分の記録映像。青年や主婦らが学び、活発に活動している様子が記録されている。

映画や12/11の講座から、いろいろな話が引き出されました

・自分も映画と同じように、昔、働きながら夜間高校に行っていた。60歳で貝塚に引っ越してきて、いけ花や太極拳など3館をかけもちして活動してありがたかった。協議会の役などもして、公民館活動をすることで充実できた。

・昔の青年は学ぶことに飢えていた。今の若者にはそれが無いのでは？今の学校教育は受け身になっていて、大人になってからは自分で学ぼうとしない。学ぶ事は大事だ。

・貝塚に来て3年になるが、講座で「社会教育」というのを初めて聞いた。法律もあって実践されているということが認識できた。自分が貢献できたらと思っている。



・独身の時から公民館に来ている。公民館は仲間ができるところで、自分の生活、人生に深く入ってくる。知らない人はもったいない。

・映画の時代は今と社会情勢は違うが、それぞれの世代で公民館活動が生きがいになっているのは同じ。それがあから元気健康維持ができています。今日は12月の講座の話も聞きたくて参加した。公民館は高齢者が多いが、子育ての活動で若い人の参加もあり、価値があると感じる。

・昔の公民館が若者が集う場所だったということを見て知れた。公民館では学びたい、知りたいというところから始めて、やっているうちに人とのつながりができる。今はスマホで調べて済ませてしまうし、買い物もネットでしたり、何でも効率化されている。公民館は効率を求めるところではないが、伝えるのが難しいと感じる。

しゃべり場★公民館とは??

平成24年（2012年）3月に開催された3館連続講座の後、有志の間で、「公民館のいつもの活動をどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない」と利用者・職員が共に企画し、公民館の事業として位置づけられて始まりました。誰でもいつからでも参加できます。

2/9 貝塚公民館大会感想会 参加者 21 人



2/4 に開催された市制 80 周年&貝塚公民館 70 周年記念第 12 回貝塚公民館大会の参加者に参加を募り、大会の感想や、公民館で「こんなことをしてみたい！」というアイデアを一緒に話し合いました。

～感想より～

- ・公民館大会の話聞いて、自分も活動したいという思いに。講演を聴いた人が自ら動き出す。人が育つということだ。
- ・したいことは自ら始めてみよう！「やってみよう」から「自分たちでする」へ
- ・楽しいことをつなげていって、「やりたい！」が広まっていく。恩送りがなされている。また、年の差フレンズ・かたり場のように世代間交流が必要。

- ・公民館大会で他市の事例もあったが、貝塚市もせんごくの杜の活動など、住民がつながりあって場を作っている。貝塚市は住民と一緒に動こうという意識が高い。どう関わったらつながる活動ができるか考えたい。
- ・公民館の外でも社会教育はできるが、外でも活躍できる人が育つのが公民館で、公民館は必要だ。
- ・公民館で市民の持っている力を引き出し人が育つことで社会が豊かに。

しゃべり場★公民館 2/22 参加者 12 人
3/12 参加者 16 人
3/22 参加者 8 人

3 回に渡って意見を出し合い、来年度の活動案をまとめました。

<どんなことが必要か・課題か>

- ・今の自分の活動と社会とのつながりに気づくしかけ。
- ・「ここに来たら楽しい」がないと「次も来よう」とならない。楽しいこと、仲間づくりがしたい。
- ・来た人をお客さんにせず、巻き込む。「しんどかったけど楽しかった」は一緒にやることで引き出される。
- ・講座に参加した人が、その中で聴いた自分の関心のある部分だけでも他の人に伝えられたら。
- ・学校を出た後の学ぶ場を社会教育で用意する。

<どんなことがしたいか・案>

- ・レコードで音楽を流す取り組みをして、交流する。
- ・公民館まつりで、音楽をかけて団体の PR。
- ・普段公民館を利用していない人に向けて PR のビデオを作り、公民館まつりで流す。
- ・スマホや SNS の教え合いを通じて世代間交流をする。
- ・クラブ活動などを体験できる場を作る。教え、教えられる場。クラブの参観日や見学ツアー。
- ・公共施設マネジメント計画を読み解く場を設定。
- ・ボードゲームで多世代をつなぐ。
- ・他市などへ視察に行く。
- ・せんごくの杜や貝塚の歴史を知るツアー、遊び隊の活動見学ツアーなど、市内のいろいろな活動を公民館でつなぐ。

R6 年度の活動予定をおおよそ決定！

開催告知!! しゃべり場★公民館企画講座

公共施設等総合管理計画を読もう

貝塚の身近な建物・施設のこれからを聞いてみませんか？

7/23(火)・8/27(火) 13:30~15:00

場所:中央公民館 視聴覚室

講師:貝塚市公共施設マネジメント室職員

各公民館へお申込みください!!



しゃべり場★REPORT No. 33

～しゃべり場★公民館講座～

「もっと知りたい！公民館の今」～未来へつなぐためにできること～

12/11 @中央公民館 視聴覚室 参加者：72人

今回の講座では奈良市立公民館の現状、全国の公民館事情をお聞きし、貝塚市立公民館の未来を一緒に考えました。

「奈良市立公民館の現状」講師：佐野万里子さん（奈良市立春日公民館 館長）

令和5年6月、「拠点としての公民館を備えつつ、公民館施設と地域ふれあい会館が融合した地域自治の拠点機能、社会教育・生涯学習の拠点機能を備えた地域ふれあい会館に移行する」という公民館再編案が出されました。この再編案では現在48館ある公民館が、地域ふれあい会館18館に集約されることとなります。

これに対し、公民館利用者が再編案の問題点を訴え、公民館利用団体が学習会を開催したり、市長との意見交換会を行ったりするなど働きかけたことで、9月にこの案は撤回されることになりました。

再編案をめぐる経過

7/20 コーラスグループフルフルが意見箱を設置。60通を超える声が集まり、意見箱は他館にも拡大した。ここから約1ヶ月で市議会議員・市長との意見交換会、ワーキングチーム発足、嘆願書の提出、学習会の開催、利用者の声の掲示等実施。



10/17 公民館なくさんといでの会発足

幅広い議論や学びの場を通して、自分たちの

10/29 奈良市公民館を守る会飛鳥発足

問題としてとらえ、考えていくことが大事！！

「全国の公民館事情」講師：石井山竜平さん（東北大学大学院教育学研究科 准教授）

全国でも、奈良市と同じように突然、公共施設の移転・統合計画が出された後、住民の運動によって撤回される事例がありました。

「人が学ぶ権利」は誰もが持っており、空気と同じでなくてはならないものです。

専門の知識を持つ職員がおり、学ぶ市民に寄り添い敬意をもって日々接しています。その中で、職員と市民の信頼が生まれ、創造的な学びが誕生しています。

事例 宮城県美術館の集約・移転

県が一方的に集約・移転の方針を出したことを、議会に公表する前に地元新聞が報道し、県民が知ることとなりました。報道から3週間後には市民がネットワークをつくり、要望書を提出したり、トークイベントを開催したりするなど反対の意思を行動であらわしました。

普段から、人がつながる場、学びの場があり、その人的ネットワークが下地となってより早く動向の情報をキャッチし、行動につなげることができました。

なぜ社会教育法が必要？

市民の学びを保障し、それを阻む力を拘束するため。

市民が生活するうえで課題を見つけ解決するために学ぶ、その学びを保障しているのが公民館という施設です。



公民館のあり方について、自分たちでも考え、判断できるようになるには？

日頃から、幅広い議論の場、学習の場をもち、人と人がつながっていることが大事。
丁寧に実践を積み重ねて行きましょう。

情報をキャッチする上手なアンテナの立て方は？

いろんな人と話すことで、どんなことが問題になっていきそうかということ
拾っていくことが大切です。そんな人と人が集い交わる場所が、公民館です。



<参加した感想>

- ・権利について気づくことができた。「権利は空気のようなもの」まさしくそうだと思った。
- ・「課題と知っていることは、本当に課題なのか？」という問いに、いろんな視点で考えてみる
ことが必要だと気づかされた。
- ・市民のネットワークが大切。人生すべては学ぶと言うこと。
- ・知ることが大切だと気づいたが、アンテナの立て方が難しい。
- ・次世代の人たちを巻き込み、子どもたちにとっても公民館がすぐ横にある生活をつくる。
- ・館の内外に公民館の大切さを広めていきたい。
- ・社会教育、学習の場には、相手への配慮、敬意が基礎になるとの文章が刺さりました。学
ぶ側はたしかに恥ずかしさがあり、教える側は上から指導する立場・失敗できないとの思
いが交さくする、互いに配慮、敬意をもって接することが、本当に大切だと思いました。

次回のしゃべり場★公民館は

2024年 **2 / 9** (金) 13時～

場所：中央公民館 講座室2



2/4に開催された貝塚公民館大会に参加した感想や、自分たちでできること、やりたいこと、
もっと知りたいこと…等、大会を聞いて感じたことやいろんな思いをここでしゃべりましょう！！

しゃべり場★公民館とは??

平成24年3月に開催された3館連続講座の後、有志の間で、「公民館のいつもの活動をどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある!」「それは職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければ
ならない」と利用者・職員が共に企画し、公民館の事業として位置づけ
られ始めました。

誰でもいつからでもご参加いただけます!

過去のREPORTは
こちらから↓↓



しゃべり場★REPORT No. 32

～しゃべり場★公民館の目的～

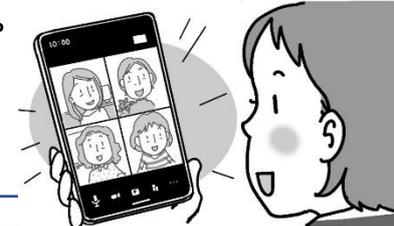
公民館が公民館でありつづけるために、何ができるかをみんなで考える場

※みんなとは利用者・利用していない人・職員のこと

昨年の公民館大会で Zoom (Zoomとはパソコンやスマートフォンを使ってセミナーや会議をオンラインで開催するために開発されたアプリのこと) を使用したことから、しゃべり場★公民館でも Zoom を使って「Zoom でしゃべり場」を開催しました。自宅や近くの公民館から参加できるのでしゃべり場★公民館を知らなかった人たちにも気軽に参加してもらえました。

Zoom でしゃべり場から抜粋

- ・(休館中)クラブの仲間と Zoom をしていて励まされた。今も Zoom で (公民館利用者同士) 知らない人とも繋がれているのがいいですね。
- ・コロナ感染が怖いので、公民館に来るか、買い物に出かけるか以外は外出を控えている。なので、今日みたいに公民館に来る機会があると嬉しいです。
- ・Zoom を自宅からする自信がなくて、公民館まで出てきて職員さんにお世話かけてます。(その話を聞いていて、すぐに複数の職員以外の参加者から)「公民館はお世話かけていいんですよ!」「そんなこと遠慮しないでいいですよ!」「どんどんお世話かけましょう!」との言葉がかけられました。
- ・初めて (Zoom に) チャレンジした。←新しいことにチャレンジする力が素晴らしいです。
- ・(Zoom が)途中で途切れてしまったが、次回も挑戦します。←使って慣れることが大事。
- ・(休館を体験して) 公民館が生活の一部になっていると感じた。
- ・外出を控えてきたが、今がチャンスだと 95 歳の母に家族で会いに行ってきた。
- ・パソコンを上達したいと公民館に行ってますが、なかなか覚えられません。
- ・コロナ慣れしてきた。いつまでたっても (コロナ) 終わらないな。子どもの 1 年は、大人の 1 年と違い大きい、すごく大きいなと感じています。
- ・Zoom は 2 回目だが、楽しい。人が話しているのを聞くと楽しい。



今年取り組んだ活動の一部

- 9/28 Zoom でしゃべり場
- 10/25 共催講座
「公民館ってどんなところ?」
講師 和歌山大学教授 村田 和子氏
- 11/26 Zoom でしゃべり場
- 1/7 Zoom でしゃべり場



10/25 しゃべり場★公民館共催講座「公民館ってどんなところ？」 参加者 27 人

和歌山大学教授村田和子先生より、公民館の歴史や成り立ち・役割・全国の事例などについてのお話がありました。その後、参加者でグループトークをして意見を出し合いました。対面とオンライン活用のハイブリッドの講座で、メンバー以外の公民館利用者と和歌山大学の学生の参加もありました。

～こんなお話が出ました～

- ・公民館はやりたいことを形にする場。学びの場。人づくりの場。利用者はみんな前向きだ。
- ・今回初めてこういった講座に参加したが、公民館活動をして、公民館が自分にとってなくてはならない場所になった。オンラインも活用しながら、コロナ下でもつながり続けたい。
- ・公民館活動に参加して仲間ができ、それまで避けてきた PTA の役なども引き受けるようになった。公民館で活躍したから、自分にできることをしようという気持ちになった。
- ・公民館には人と人をつなげる意義がある。コロナで公民館を取り巻く環境が変わってきているが、これまで積み上げてきたもの、作って来たつながりがなくなってしまうようにしたい

～講座の感想～

- ・公民館ってどんなところかというお話を何回も聞いて確認しながら活動が続けることが大事。
- ・普段会わない人とも話して交流する機会になった。和歌山大学の学生が来てくれたのも良かった。公民館を知ってもらおう機会にもなった。

1/18 佐藤一子さんを迎えて考える「持続可能な未来に向けての学びと公民館」 参加者 40 人

第 10 回貝塚公民館大会事前学習会としてオンラインを活用して開催しました。

社会的困難の中での社会教育の「必須性」や、持続可能な開発のための教育「ESD」、国際社会につなげる視点「グローバル」な公民館活動についてお話があり、余裕がある人が人助けをするのではなく、大変さも共有しながらお互いに助け合う、多世代、双方向で互いに補い合うことが必要だということを確認しました。参加者は講師の講演で心に留まったことを紙に書きだし、公演内容を自分自身の身近なことに引き寄せて考えることができました。

最後は、新しいネットワークを作らなければ公民館は来る人が限られ先細りしてしまう、職員の多角的な目を磨き、市民の目と併せた議論が必要だというお話で締めくくられました。

Zoom でしゃべり場のご案内

Zoom を使っておしゃべりしましょう。

公民館大会や事前学習会で心に残ったこと、クラブ活動や公民館のことを話題にします。

日時：令和 4 年 2 月 18 日(金) 13 時 30 分～

場所：おうちから、または 3 公民館

申込：各公民館まで



しゃべり場★公民館とは

平成 24 年（2012 年）3 月に開催された 3 連続講座（3 公民館で開催）の後、有志の間でのいつもの活動をどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者・職員が共に企画し、公民館の事業として位置づけて始めました。誰でもいつからでも参加できます。

しゃべり場★REPORT No. 31

～しゃべり場★公民館の目的～

公民館が公民館でありつづけるために、
何ができるかをみんなで考える場

※みんなとは利用者・利用していない人・職員のこと

新型コロナウイルスで、第8回公民館大会（R2年3月）が中止となり、その後緊急事態宣言等の影響で公民館も閉館する時期もあり、「しゃべり場★公民館」として活動できたのは7月からでした。

『公民館が長期間、閉館する・・・』市民も職員も経験したことのない状況を経て、公民館を利用するクラブ・団体がこの間どう感じていたのか、また開館後どんな変化があったのか、なかったのか。それらの聞き取りをしないと、従来の質問内容から少し変えてクラブ訪問を続けること、第9回公民館大会へ参画することの2本柱で活動しようと決めました。

訪問にご協力していただいたクラブのみなさんに感謝しつつ、簡単なまとめを作成しました。どのクラブも素敵なエピソードがたくさんあり、すべて載せたいのですが、とても紙面が足りません。その一部を集めて「しゃべり場★REPORT No.31」としました。

今後もクラブ訪問を続けたいです。

「私たちのクラブに来ていいよ。」「話を聞きに来て！」というクラブがあれば公民館までお知らせください。

今までに訪問したクラブは・・・ **大人のHIPHOP チェケラッシュ(中央)**

ガラクタクラブ(中央) **水墨画(中央)**

陶芸 夜(山手) **おやじのシンプルキッチン(中央)**

サラダボール(浜手) **水墨画(山手)**

木曜書道(中央) **陶芸 こねこね(浜手)**

男のヨガ(山手) **ホロホロウクレレ(中央)**

彫金クラブ(中央) **人形劇あひる(中央)**



いろいろお話を聞かせていただきありがとうございました。

一人一人が人生を楽しんでいる

山手地区公民館 「男のヨガ」
(第1・2・3火曜日 午後)



2017年の講座から始まり、2020年4月にできた新しいクラブです。公民館へ来たきっかけは、「友達が行っていると聞いて」「チラシを見て興味を持った」「定年退職後、妻が私の出て行くところを探して」などさまざまでした。

なぜ男のヨガか？というところでは、「“男の“ということで男性のみだったから参加した。男女混合だったら参加していない。」という声がありました。男性にもっと公民館活動に参加してもらいたいという狙いから、うまく活動に結びついたようです。

「館の職員、活動協議会の委員長もよくしてくれている。山手だから参加している。」と、良いつながり、関係づくりができている様子もうかがえました。

コロナで活動ができなかった時期は、「家でヨガやほかの運動をして体を動かしていた。」再開してからは、「同じ波長の仲間と話ができるのが良い。クラブが楽しみで、支えになっている。」とのことでした。

また、「ヨガをした日の夜はよく眠れる。」など、みなさん口々にヨガの良さについて話してくださり、クラブ活動を生きがいの一つとして、それぞれの方が人生を楽しんでいることが伝わってきました。

海辺で演奏できたら・・・気持ちいいよね

中央公民館 「ホロホロウクレレ」
(第2・4金曜日 午前)

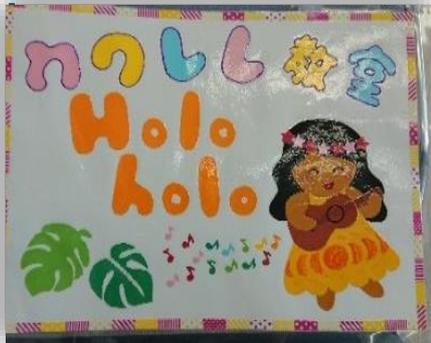


講座受講者の「もっと続けたい」という声からクラブができました。講師もクラブ経験者なので、クラブについてとても理解があるそうです。

入部のきっかけは「家にたまたまウクレレがあった」「昔からやってみたかった」「初心者でも大丈夫とあったから」などいろいろありました。

話を聞いていると「コロナでクラブ活動出来ない時にね、ふと二色の浜で海に向かってみんな演奏してもいいかな・・・って考えていたんです」

その発言がされるやいなや、「それいいね！行きたい」「もっと早く言ってくれたら良かったのに！」「今度、みんなで行ってみようか」「海に向かったの演奏いいね。ハワイみたい！」と盛り上がりました。



今年は公民館まつりをはじめ、その他の発表会や訪問がすべてなくなってしまい目標がなく寂しいと話してくれました。

ウクレレは一人でも演奏できますが、みんなで音を合わせ歌うと、とても楽しいそうです。クラブ員同士の仲良さがよくわかりました。



クラブへの愛で続けてこられた

中央公民館 「彫金クラブ」
(第2・4金曜日 午後)



銀やアルミ、真鍮^{しんちゅう}の板からアクセサリ等を作っているクラブです。彫金の工程は、銀の板をノコで切りバーナーであぶって曲げた後ひたすら磨くとのこと・・・地味な作業だけど、物作りが好きな人はハマるそうです。そんな彫金クラブも、旧公会堂時代から50年以上続く歴史の中で部員が2人しかいない時期があったそうです。それでも廃部にせず、約10年間2人が互いに「絶対やめないでね」と言い合い、また事情があり一度辞めた人も「絶対に戻るから廃部にしないで！」と約束していたとのこと。そんな中、昼間なら入りたいという人がいたので時間を変え、メンバーが増えていったそうです。少ない人数でもクラブを続けたいという気持ちが実ったのですね。

みなさん仲が良いという印象を受け、聞いてみると「作品を作りながらいろいろな話をする」とのこと。最近入ったばかりの人も、「すぐに馴染めた。わからないことはすぐに教えてくれるし、作品作りのアドバイスももらえる」と言っていました。また、「公民館は、何かしよう！と思ったときにお金をあまりかけずに気軽に始められる場所」だと語ってくれました。

ちなみに、創作室に今ある楕円形の机は、旧公会堂で使っていたものを運びこんだそうです…年季の入った机だったのですね。

「まあええよ。いとき」
いつ来ても変わりなく対応し
てくれる人間関係かな。

中央公民館 「人形劇あひる」
(第1～4木曜日 午前)



旧公会堂時代に講座があり、そこからク
ラブになった、という歴史を持っています。

コロナで公演がいくつもキャンセルとなり、かろうじて出来た時もいつ
もと違い、子ども達と舞台の距離がいつもよりずっと離れていたり、マス
クを着けているので表情や笑い声もわかりにくく、寂しい舞台だったそう
です。また、今でも様々な事情で自主的にクラブを休んでいる部員もいる
そうです。

数年前からクラブでの連絡にラインを活用しているそうで、公民館が使
えない時期でも、ラインや電話でそれぞれが繋がり、一人ひとりとしては
家で人形劇に使う小道具作りに励んでいたそうです。

クラブが長く続いている秘訣を聞くと「『まあええよ。いとき』という
おおらかさと久しぶりにクラブに来ても変わりなく対応してくれる人間関
係かな。あと、(公演時)子ども達からもらえる満足感かな。」と教えてく
れました。

あとがき

クラブ訪問する時「今回はどんな話が聞けるだろう？」という期待と、「(クラブ
に)せっかく時間を作ってもらったのに、うまくいかなかったら・・・」という緊張
で胃のあたりがグリグリしてきます。訪問後、ロビーなどでばったり出会った時に
「有意義な時間だったよ。」や「クラブであんな話、したことなかったわ。話すのも
悪くはないね。」「あそこは、もっと聞いてくれたら良かったのに」など感想を話し
てもらえるとこれからの訪問に役立ちます。今まで話を聞いたすべてのク
ラブに共通することは、クラブでは当たり前すぎて気付いてないけれど、
実は素敵なエピソードをいくつも持っているということです。



BREAK TIME

しゃべり場★公民館とは

平成24年(2012年)3月に開催した3連続講座(3公民館で開催)の
後、有志の間で、いつもの活動をどうしていくかもっと具体的に考えてい
く必要がある!それは職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければい
けない。と考え、利用者・職員が共に企画し話し合い考える場を公民館事業
と位置づけて始めました。誰でもいつからでも参加できます。

クラブ以外でも 付き合える関係に！

中央公民館クラブ「おやじのシンプルキッチン」

第2木曜日午前

公民館へ来たきっかけは様々だけど、クラブに来るようになって「家でも料理するようになった。」「引きこもりがちだったが、クラブに来て会話するようになった。」など、公民館活動が生活の一部となり、公民館とは「地域社会へ参加できる場」「自分を向上させる、広げる場」と公民館が果たす役割は大きいと感じました。

公民館利用者は「固い人が多い」とのイメージなのでもっと他と交流することが大事。

男性の場合、会社勤めを終えると社会との関りが少なくなる人が多い。公民館を利用して現役の時のアイデアを多いに生かしてほしいです。

楽しくリフレッシュでき、 ずっと勉強できる場！！

山手地区公民館クラブ「水墨画」

第2・4木曜日午後

きっかけは、「水墨画が好き」「老人ホームの施設の職員に勧められて」「妻や友達に誘われて」「60歳過ぎて何か始めようと思って」などさまざまでした。

水墨画のクラブ活動を通して、コミュニケーションがとれたり、作品づくりは今はできないが、みんなとおしゃべりしたくて来たり、先生の人柄に惹かれて通いつけているそうです。

長年公民館に来て、どんな場所か知るために、生涯学習について学び、資格をとった人もいます。皆さん、とてもイキイキとされていました！

書道を通して生活を楽しむ

中央公民館クラブ「木曜書道」第1～4木曜日午後

現在メンバーは男性一人を含む17名です。

きっかけは「友人がいたから」「百人一首を書きたくて」「体験講座を受けた」など様々ですが「講師の人柄に惹かれて」という意見も多くありました。クラブに入り「知り合いが増え、友達の輪が広がった」「自分のために使う時間が持てるようになり、体調が良くなった」など、活動を楽しみにされている様子が伝わってきました。

公民館は「生活の軸となっている」「癒しの場」「年代差を感じさせない関係が生まれる」など皆さんにとって大切な場所となっているようです。

「書道を通して生活を楽しんでもらいたい」と、作品を1冊にまとめ1年間の頑張りを目に見える形にするなどモチベーションを高める工夫や、事情でクラブを離れてもまた帰ってこられる場所という雰囲気作りを講師が大切にしている様子がうかがえ、講師自身が「公民館に支えられてきた」とおっしゃっているのが印象的でした。

～しゃべり場★公民館の目的～

公民館が公民館でありつづけるために、何ができるかをみんなで考える場

※みんなとは利用者・利用していない人・職員のこと

「公民館（クラブ）は自分にとってどんな場所なのか」
そんな事を普段クラブ活動の中で話す機会なんてないと思います・・・。

しゃべり場★公民館のスタッフが活動中のクラブを訪問し、

①公民館に来たきっかけ②公民館に来て何が変わったか③あなたにとって公民館とは
3つの質問させてもらい、公民館での活動を改めて考えるきっかけになればと

“しゃべり場★カフェ”の活動を続けています。

訪問する先々で、公民館のクラブは技術の向上のためだけではない
「人と人のつながり」や「学び」の場所なのだと感じるお話が聞けます。

訪問したスタッフの心に響いた名言とあわせて紹介します。

公民館はきょういくところ！ きょうようじのあるところ！

中央公民館クラブ「水墨画」 第2・4金曜日午前

公民館のクラブは深く習いたいと思っていると少し物足りなくなるかもしれないけれど、ちょっと始めてみるにはいいところ。

クラブに行けば仲間と話ができる。唯一と言っているくらい社会とつながれる場所。

「公民館は今日行くところ（今日行く＝教育）今日用事のあるところ（きょうよう＝教養）」と公民館を言い表した講師の先生がとてもステキだなと思いました。

クラブの皆さんも講師も、とてもイキイキとされていました！

『世代を超えてつながる』

中央公民館クラブ「大人のHIPHOPチェックラッシュ」 第1～4月曜日午前
きっかけは「クラブ案内を見て」「何か身体を動かすクラブを探していて都合の合うクラブだった」「知り合いに誘われて」と全員がヒップホップダンスをやった事が無い人ばかりです。「うまくできなくても楽しく」「段々と慣れてきて、公民館まつりの舞台発表も楽しめるようになってきた」「素の自分を出せるようになった」と変化し、自主練習も出来るようになりました。

20代から70代の年齢層の厚いクラブですが、食事会やレクリエーションを持つことも多く、公民館が「世代間交流の場」「仲間づくりの場」「刺激をもらえる場」「つながるところ」となっています。

『公民館がこんなに盛り上がっている市はない！感謝している！』

浜手地区公民館クラブ「陶芸 こねこね」 第1・2・4月曜日午前

平成元年に公民館ができ、その年に講座からクラブが出来ました。陶芸窯はありましたが、必要な道具を準備する、ゼロからの立ち上げでした。今振り返ると、会計は大変でしたが、当時は部屋代が免除されていたのでとても助かりました。その後も何度か存続の危機がありましたが、仲間と乗り越えてきました。

講師が来るのは月に1回で、あとは自分達で教えあいながら、自由な作品づくりをしています。

クラブの仲間と食事会はもちろん、陶芸の展示会を一緒に見に行ったり、陶芸に関わる土地へのバスツアーを計画したりと仲の良さは抜群です。公民館は生活ペースを作ることであり、切り離せない居場所です。他市から引っ越してきた人は「公民館がこんなに盛り上がっている市はない、感謝している。」と言っています。

だ～れが生徒か先生か～♪ 先生(講師)も生徒(クラブ員)も一緒 「めだかの学校」のようなクラブ!

山手地区公民館クラブ「陶芸(夜)」 第1～4金曜日夜間

公民館での活動は「おしゃべりする時間が多い」「自分の夢の実現。」

「子どもの頃に毎週楽しみ(待ちどおしい)だったアニメの番組のような感覚」「公民館に来ている2時間は何もかも忘れて作品作りに集中できる」など、忙しい毎日を製作やクラブ員との交流でリフレッシュしているようでした。

講師は「講師もクラブ員も一緒、“めだかの学校”のようなクラブ。作品を作らなくてもいい、この場所が好きで居たいと思えばいい。」とおっしゃっていて、これぞ公民館クラブだ！と感じました。

癒しの場であり、音楽を通して 豊かな時間を過ごせる空間です♪♪

中央公民館クラブ「ガラタクラブ」

第1～4金曜日夜間

1971年に公会堂時代の公民館で活動を始め、現在も毎週金曜日の夜に活動しています。

公民館へ来たきっかけは様々ですが、公民館に来ることが今や生活の一部になっている人や、日々のいそがしい時間からリフレッシュできているそうです。また、好きな活動をして仲間づくりができる場所が公民館だと話してくれました。

長年の活動では、歌手の神野美伽さんが中学生の時に共演したり、福祉施設を訪問して演奏を楽しんで頂いています。また、メンバーはクラブを継続することに価値があると感じているそうです。

合唱で心も身体も リフレッシュ♪

浜手地区公民館クラブ「サラダボール」

第1・3土曜日午前

クラブ員の声から「声が出るようになった」「姿勢が良くなった」「日常が楽しく健康になった」

「自己表現ができ自信がもてるようになった」「自分にとって長年の友だちができた事が人生の宝物」

など、クラブに入って合唱する中で他人との関わりもでき、心も身体もリフレッシュできる場になっている様です。

また、長年指導して頂いている先生との信頼関係もあり、練習後のおしゃべり&ティータイムも楽しみの一つ♪

～しゃべり場★公民館の目的～

公民館が公民館でありつづけるために、何ができるかをみんなで考える場

※みんなとは利用者・利用していない人・職員のこと

しゃべり場★合宿を行いました！！

令和元年6月29日（土）～30日（日） 於 大阪府立少年自然の家

しゃべり場メンバー他その家族や公民館利用者等も含め、22名の参加で開催しました。夜から大雨の予報もあり、時折小雨が降るお天気でしたが、子どもたちはお構いなしに崖をアスレチックのようにかけ登り、虫網を持って走り回っていました。

そして、最年少3才から最年長75才までがみんな一緒にBBQの準備を開始！！野菜のカットは女の子チームが担当し、大人は「つい手を出したくなるわ」と言いながら見守り役に…。難しいところはお手本を見せてくれたりして、今さっき初めて会ったところなのに、まるでおじいちゃんと孫のように楽しそうでした。



BBQが始まり自己紹介をしたとき、しゃべり場メンバーの一人が、「私はいつも^{ティ}○○^{オー}になると思って色々な活動しています」とおしゃっていました。
※（T）隣の（O）お節介な（O）おじさん
すると、別の人から「じゃあ、私はTOB（ばあさん）やな」との声に、みんなで大笑いしました。

そして、暗くなる頃いよいよメインイベントのキャンプファイヤーが始まりました。燃える炎を囲んで、いくつかゲームを楽しみました。中でも“お菓子屋さんへ行こうよゲーム（お菓子の名前の文字数の人数でグループをつくるゲーム）”は軽快なリズムと振付もあって盛り上がりました。終わりは、全員で手をつなぎ「燃えろよ燃えろ」を合唱しました。「キャンプファイヤーなんて何十年かぶりやわ」と懐かしんでいました。

お風呂も済ませ、夜は談話室でしゃべり場タイム！「協議会の役員をして人の為だけでなく自分の為にもなった」「今年、子ども会の会長を立候補してやっているが、それは公民館での活動があったから」などの話が聞け、改めて公民館での学びが自身の人生を豊かにし、活動の場を広げるのだと感じました。

「しゃべり場★合宿」は初めての企画でしたが、世代間交流もでき、公民館を熱く語ることもでき、とても良い時間を過ごせた2日間でした。



しゃべり場リーダー(世話人)研修

クラブ訪問をしていて、やっぱりよく耳にするのが・・・

「役(クラブ委員)が嫌でクラブをやめてしまう」「自分が何年も役を引き受けているけど他にやってくれる人がいない」など、当たり前ですが、グループのリーダーになる事を重荷と感じている人が多いんです。

そこで!!しゃべり場は、今年度リーダーやクラブ委員になった方たちと上記の重荷についてざっくばらんに話せる機会『リーダー(世話人)研修』を企画から当日進行までを協力して中央公民館や浜手地区公民館で開催しました。今後、山手地区公民館でも開催する予定です。

※中央公民館での研修の様子は、レポートNo.28をご覧ください。

浜手地区公民館代表者会議に於いて

令和元年6月29日(土曜日)

10:00~11:30 17団体(18人)出席

議題① あなたは委員で、明日はある会議です。
同じくらい大事な用事ができました。
あなたは会議に出席しますか。

- 同じクラブの人に代理で出てもらいます。クラブ内で助け合いができます。欠席の理由をきちんと説明すればわかってもらえます。
- 代わりにでてもらう。そんな時のために日頃よりサブ(複数体制)を作っておきます。
- どうしても代理の人がいない場合で、その会議に他のクラブで知り合いが出ていたらその人に内容を教えてもらいます。
- 代理の人がみつからず、どうしても欠席の場合は後日、会議内容を聞きに行きます。

議題② 長年団体のリーダーをしている人がいます。交代する人がいなくて困っています。
あなたはどうかアドバイスしますか。

- いきなりリーダーを降りるのではなく、1年間補助的にサポートする。それで新しいリーダーをしてもらえる人を見つける。
- リーダーの仕事や内容を分担して、一人に負担が大きくなるようにする。
- もう少し頑張ってもらって、その間に応援もするし、交代する人もみんなで相談します。
- 機械的に交代する方法を決めてしまう。グループの助け合いのもとで、順番制にし、一人に負担がかからないように工夫する。
- リーダーをできるのが一人しかいないクラブなら解散したほうがいい。クラブはみんなで助け合うものだから。
- リーダーができる人とできない人はいると思う。今の状況だと、私は交代はできませんが、フォローできたらと思います。自主運営は大変なことも多いなと役員をして知りました。
- リーダーの決め方をルール化しています。(新入部員とベテラン部員のセット)
- クラブはみんなで助け合うものです。交代できないはずがない。メンバーの中に必ずやる人がでてくるはずです。

感想:①については、クラブや団体の中であらかじめ話し合われている場合がほとんどで、「他の人に頼む。でも、急な話で都合がみんなつかなかったら・・・」という前提で話がすすみました。②についても、一人の負担を分散して工夫をする。みんなで話し合う。が多く出てきました。参加者の大多数が、みんなで助け合って活動をしている様子が伺えました。



しゃべり場★公民館とは

平成24年3月に開催された3連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある!

それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者・職員の立場関係なく『公民館』を語るそこから始めよう!と公民館利用者と職員が共に企画し、公民館の事業として位置付けて始めました。

誰でもいつからでも参加できます。



しゃべり場★REPORT

R1.6 発行
No. 28

<お問い合わせ>

中央公民館 433-7222

浜手地区公民館 431-0926

山手地区公民館 446-0090

～しゃべり場★公民館の目的～

公民館が公民館でありつづけるために、何ができるかをみんなで考える場

※みんなとは利用者・利用していない人・職員のこと

しゃべり場☆リーフレットができました！

『しゃべり場★公民館』って何してんの???
よく聞かれるから「これ見て！」と渡せるパンフレットがあればいいな～というメンバーの声から作りました。

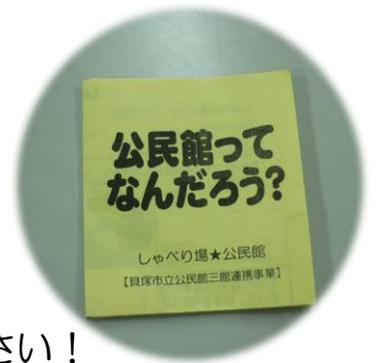
★パッと手に取り、持ち帰りやすいサイズ！

★中を開きたくなる表紙タイトル！

★活動がひと目でわかる！

今後、クラブ訪問など様々な機会でお配りしていきます。

各公民館のラックにも置いてるので手に取って見てください！



～クラブ訪問～

- ①公民館に来たきっかけは何ですか？
- ②公民館に来て何かかわりましたか？
- ③公民館ってどんなところですか？

「自分たちのクラブでも話したい」そんなクラブ募集中！
しゃべり場のスタッフが訪問します！

中央公民館クラブ「ガラクタクラブ」

平成30年10月12日（金） 参加者15人

1971年に公会堂時代の公民館で活動を始めた「ガラクタクラブ」は現在も毎週金曜日の夜に練習をしています。しゃべり場クラブ訪問で皆さんにお話を伺いました。

公民館へ来たきっかけは、「クラブ案内を見た」「知人の紹介」「クラブのネット掲示板を見て」等々。そして、公民館に来ることが生活の一部になっている人や、公民館に来て日々のいそがしい時間からリフレッシュできるようになったのが嬉しいとのこと。クラブ活動ができる公民館とは、癒しの場であり音楽を通して豊かな時間が過ごせる空間だそうです。また、好きな活動をして仲間づくりができる場所が公民館だと話してくれました。

長年活動を続けている「ガラクタクラブ」は、神野美伽さんが中学生の時に共演をしたり公民館の事業「ほかでもがんばっているよ！」で高齢者施設を訪問して演奏を楽しんで頂いています。皆さんクラブを継続することに価値があると感じているそうです。随時、演奏メンバーを募集しています♪♪♪



中央公民館クラブ「水墨画」

平成31年1月11日（金）参加者13人

中央公民館クラブの「水墨画」は第2・第4金曜日朝10時より活動しています。2006年中央公民館の講座からスタートしたクラブで、スケッチに出かけたりすることもあるそうで、日々作品作りに励んでいます。

公民館に来たきっかけは「退職後、妻に勧められて見学にきたら、近所の人が無理に2人いたのもあり加入した」「大阪府外から引越して来て、広報を見てクラブを知って加入した」など。以前より書道や絵画をやっていた人もいれば「絵は好きでなかった」や「自分は体育会系で水墨画には興味がなかった」と話してくれた人もいてとても驚きました。

公民館はどんなところですか？との問いには「唯一社会とつながっている所」「今日行く（教育）、今日用事のある（教養）のきかけの場所」など、公民館は、皆さんの生活に無くてはならない存在になっているんだと感じました。



他には「クラブ協議会役員を選出について負担が大きい」との話が出たとき、他の役員経験者のメンバーからは「実際にやってみたらそれほど大変ではなかった」との意見も出ていました。とても貴重な意見交換の時間が持てました。

山手地区公民館クラブ「陶芸（夜）」

平成31年2月22日（金）参加者14人

山手地区公民館クラブの「陶芸（夜）」は毎週金曜日の夜7時より活動しています。

活動日が金曜日の夜ということもあり、仕事帰りに来ているかたもいて、男女幅広い年代のメンバーで構成されています。

公民館に来たきっかけは「開館当時の講座を受講し、クラブ化になった当時のメンバー」「何かを始めたくて見学に来てその日に入会した」「奥さんに半強制的に勧められた」など様々でした。

公民館での活動について「以前通っていた陶芸教室とは違い、クラブ員同士話しをする機会が多い」との違いをお話ししてくれる人、「公民館へ来るのは、自分の夢の実現。子どもの頃に毎週楽しみにしていたアニメの番組を見るような感覚」「公民館に来ている2時間は何もかも忘れて作品作りに集中できる」など、忙しい毎日を公民館での活動やクラブ員同士の交流でリフレッシュしているようです。

個々に集中して作業をする陶芸ですが、とても仲の良い雰囲気を感じました。毎年、研修を兼ねた日帰り親睦旅行へも出かけているそうです。



中央公民館クラブ「おやじのシンプルキッチン」

平成31年3月14日（火）参加者14人

中央公民館クラブの「おやじのシンプルキッチン」は第2木曜日の朝9時30分より月1回活動しています。

2009年中央公民館の講座からスタートしたクラブで、その名の通り、おやじ（男性）ばかりで構成され、安くて簡単、自分たちのレベルにあったレシピで料理を楽しんでいます。

「妻と娘が申し込んだ」「退職後、家でゴロゴロしているだけでなく、何かしたかった」「同じ年代の集まりに出かけようと思った」など、他者と関わりたいとの思いがきっかけとなった人が多かったです。

クラブに来るようになって「家でも料理をするようになった」「家では引きこもりがちだが、月1回クラブに来て会話するようになった」など、公民館活動が生活の一部となり、公民館とは「地域社会へ参加できる場、地域社会をよくするための場」「自分を向上させる、広げる場」と、まさに公民館が果たすべき役割を証明してくれていると感じました。

「公民館利用者は固い人が多い。交流が大事」「クラブ以外でも付き合える友人関係になりたい」との意見もあり、今後の発展がとても楽しみなクラブでした。



浜手地区公民館クラブ「サラダボール」

平成31年3月17日（木）参加者17人

浜手地区公民館クラブ「サラダボール」は第1・3土曜日の朝10時から活動している合唱のクラブです。

公民館に来たきっかけは、「以前コーラスグループに入っていて見学に来た」「浜手、山手、中央公民館の催しや講習会に参加した」「子育ての会に入ることになった」など様々で、「貝塚市に嫁いで来て公民館を訪ねた」という人もいました。公民館のクラブに入り、「声が出るようになった」「姿勢が良くなった」「日常が楽しく健康になった」など自己表現ができて自信が持てるようになったそうです。

公民館とはどんなところか聞いてみると、「とにかく楽しいところ」「励まされる場所」「趣味ができる場所」「近くで文化的なことができる場所」といったお話がありました。

「サラダボール」は、長年指導頂いている先生との信頼関係ができていて、練習の後もお茶を飲みながらお話しをするのが楽しみでもあるそうです。公民館のクラブに入り、長年の友だちが出来たことが自分にとっての宝物だと笑顔で話してくれました。楽しい「サラダボール」活動に興味のある方は一度見学にいらしてください。



しゃべり場リーダー(世話人)研修

クラブ訪問をしていて、やっぱりよく耳にするのが・・・

「役(クラブ委員)が嫌でクラブをやめてしまう」「自分が何年も役を引き受けているけど他にやってくれる人がいない」など、当たり前ですが、グループのリーダーになる事を重荷と感じている人が多いんです。

そこで！！しゃべり場は、今年度リーダーやクラブ委員になった方たちと上記の重荷についてざっくばらんに話せる機会『リーダー(世話人)研修』を企画から当日進行までを協力して中央公民館で開催しました。今後、浜手地区公民館、山手地区公民館でも開催する予定です。

中央公民館代表者会議に於いて

平成31年4月15日(月)

14:00～ 52団体(61人)出席

19:00～ 27団体(34人)出席

◎当日の流れ

*中央公民館からのお話 30分

*研修会グループトーク 60分



◎議題・参加者の回答

議題① あなたは委員で、明日はある会議です。同じくらい大事な用事ができました。あなたは会議に出席しますか。

回答：出席する(理由)

- *代わりの人を見つけるのが難しい。 *出席するが、用事もする。 *先約なので出席する。
- *公民館活動を優先して私的なことを第二に計画を立てているから。 *助け合いながら出席する。
- *委員として代表なので、伝えるべきことがあると思うから。 他

欠席する(理由)

- *会議には代理の人に出してもらう。 *委員は二人体制なので、もう一人の委員に願います。
- *重要度レベルによってかわる。 *悩ましいが欠席する。 *迷惑をかけると分かりながらも。
- *大事な用事が家族のことであるならば、家族を優先する。 *もし出なくても後で資料がもらえる。 他

議題② 長年団体のリーダーをしている人がいます。交替する人がいなくて困っています。あなたはどうかアドバイスしますか。

回答：*手伝えることがあればします。他の皆さんと一緒に応援します。

*リーダーはしんどい事ばかりではない。きっと楽しい事もある。順番にまわしましょう。

*自分のリーダー経験を話す。 *無理な日があれば、替わって出るよ。横のつながりもできるよ。 他

まとめ：グループトークでは、たくさんの建設的な意見が出ました。一人でリーダーの役割を抱え込まなくて良いように、その役割について話し合い、多くの人がリーダーになれるような土台作りが必要ではないかということでした。また、それぞれの回答からは、メンバーが応援・協力してくれる環境にいる人たちもいることが分かりました。クラブ・団体にとってリーダーを置くことは切実な問題でもあると思いますが、リーダーを複数にして役割を分担していたり、長年続いているグループが皆平等にやっていて問題がないという現状も発表され、それらを参考にポジティブに公民館での活動を続けていきたいという声が聞かれました。

しゃべり場★公民館とは

平成24年3月に開催された3連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！

それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者・職員の立場関係なく『公民館』を語る場所から始めよう！と公民館利用者と職員が共に企画し、公民館の事業として位置付けて始めました。

誰でもいつからでも参加できます。



しゃべり場★REPORT

H30.9 発行
No. 27

<お問い合わせ>

中央公民館 433-7222

浜手地区公民館 431-0926

山手地区公民館 446-0090

～しゃべり場★公民館の目的～

公民館が公民館でありつづけるために、何ができるかをみんなで考える場

※みんなとは利用者・利用していない人・職員のこと

7/23日(月)しゃべり場☆カフェ in「大人のHIPHOP チェケラッシュ」参加者6人

中央公民館のクラブ「大人のHIPHOP チェケラッシュ」にお邪魔して①公民館に来たきっかけは何ですか？②公民館に来て何か変わりましたか？③公民館ってどんなところですか？の3つをテーマに話を聴かせてもらいました。「ダンスはうまくできなくても楽しくできたらいい」「最初はクラブの中で振付を見られるのもいやだったが、段々と慣れてきて、公民館まつりの舞台発表も楽しめるようになってきた」「クラブの中の自分は家と違う自分がある」「こうした機会を作ってもらって初めて自分のクラブができた経緯が聴けてよかった」等の話がでました。チェケラッシュさんにとって公民館は「仲間づくりの場」「つながるところ」「世代間交流の場」「刺激をもらえるところ」「素の自分を出せる場」だそうです。習い事をするだけでは味わえない深い人とのつながりを感じ活動しています。

映画を観て公民館の歴史を知ろう!!

中央公民館の映画会

7月22日(日)10時～ 視聴覚室 参加者22人

15分ほど映画を観た後、グループを作り、自由に感想を話し合いました。当時の公民館は若者が多く、キャンプに出掛けたり、演劇発表をしたりと様々なことを行っていました。映画を観た人たちからは「今と全然違う」「力がみなぎっている」「衝撃を受けた」「私も元気をもらった」など、様々な感想が出てきました。映画を観られた方々は現在の公民館での活動を振り返る機会となり、明日からの活動の励みになりました♪



貝塚公民館の映画とは

1970年代に現在の文部科学省が作成した公民館を題材とした30分ほどの記録映画で、二つの公民館が舞台となっており、その一つがここ貝塚市の公民館です。現在は中央、浜手、山手の三つの公民館がありますが、昔は一館のみで、公会堂を活用して公民館活動が行われていました。当時の活動がドキュメンタリー形式で収録されています。



浜手地区公民館の映画会

6月19日(火) 15時～ 浜手ロビー 参加者20人

浜手地区公民館の映画会には、子どもから公会堂時代を知っている方までが集まりました。今回の映画会では各公民館が文部科学省から授与された優良公民館表彰の賞状と盾を会場に飾りました。参加者たちは、地元の社会教育の活動に関っている事に誇りを感じると話していました。

映画が始まると、「あ、あの人が知ってる」「公会堂を利用していた」「山の子山荘に行った」と懐かしさのこもったコメントを頂きました。「当時の人達は何かを学びたければ公会堂(公民館)に行っていた」「働きながらも学べる場所だった」という感想もありました。

映画の後は「しゃべり場」のメンバーも入ってグループトークをしました。現在と将来の公民館像を皆で語り合いました。

*浜手地区公民館が開館してクラブに入りたいと思い現在に至る。

*貝塚に引っ越して来て公民館を通じて友人ができ、クラブ活動を続けている。

*公民館とは人と知り合える場所、癒される場所である。

*公民館のクラブ活動は、自他ともに楽しい気分させると思う。

*子育て世代も活発に利用していて、公民館の将来につながれば良いと思う。



山手地区公民館の映画会

7月17日(火) 13時40分～ 山手ロビー 参加者64人

山手地区公民館は、いつも奇数月に実施しているロビーコンサートのあとに上映会を開催しました。たまたまロビーコンサートに来て参加してくれたかた、クラブ活動を中断して全員で参加してくれたクラブと、たくさんの参加がありました。

映画を観たあとはグループに分かれ、今と昔の違いなど自由に感想を話し合いました。

公民館の歴史を知り、今も変わらない公民館の役割について考えるととても貴重な時間になりました。

(参加者の感想)

- ・当時は、若者たちの出会いの場が公民館だった。
- ・当時は夜遅くまで若者が集まり賑わっていた。
- ・現在の利用者の年齢層が高いので、もっと若い人たちが来られるようになったら良いと思う。
- ・市外から嫁いできて、公民館で友達ができた。住んでいる町内以外の地域のかたと知り合えて良かった。
- ・公民館の良さは来たらわかる！！



しゃべり場★公民館とは

平成24年3月に開催された3連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！

それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者・職員の立場関係なく『公民館』を語るころから始めよう！と公民館利用者と職員が共に企画し、公民館の事業として位置付けて始めました。

誰でもいつからでも参加できます。



しゃべり場★REPORT

H29.8 発行
No. 26

<お問い合わせ>

中央公民館 433-7222

浜手地区公民館 431-0926

山手地区公民館 446-0090

～しゃべり場★公民館の目的～

公民館が公民館でありつづけるために、何ができるかをみんなで考える場

※みんなとは利用者・利用していない人・職員のこと

7/4日（火）遊び隊&プレイパーク&しゃべり場☆交流会 36名参加

「どんな想いでそれぞれ活動しているの？」そんなお互いの活動や想いを聞いてみたい・・・そんなことがきっかけで今回の交流会が実現しました。交流会前半では遊び隊主導で「切り貼り絵」をし、場が和んで良いアイスブレイクとなりました。後半はしゃべり場の主導でひとつの大きな円になり、それぞれの活動や公民館に対する想いを順番に語り合いました。遊び隊さんからは「とにかく子どもが好き。子どもと触れ合うことが好き。自分の育った子ども時代を遊んでいる子ども達に重ねて懐かしみ、行くのが楽しい」「本気で遊ぶことが少なくなっている。本気で遊ぶことこそ楽しい」とのお話が出ました。



子どもにかえたようにみんな真剣（切り貼り絵）



1人ずつ想いを語り合った

7/14日（金）中央ロビーしゃべり場★カフェ 28名参加

「ちょっとお茶していきませんか？」そんな気軽なムードで始まったしゃべり場☆カフェ。クラブ帰りや公民館が好きな方が参加。公民館活動の内容・悩み・きっかけなど思い思いに話し合いました。活動のきっかけは「自分を変えようと思って公民館に来た」という方のお話に皆さん共感され聞き入っていました。きっかけはそれぞれあると思いますが、自分の人生をより良くしようという思いは共通にあるのではないのでしょうか。

このようなカフェを続けることが公民館の活性化につながり、また公民館を利用している者同士が繋がっていくことが大事だとのお話が印象的でした。



山手ロビーしゃべり場★カフェ

5月25日(木)2時半～4時 山手ロビー 参加者24人



木曜日のお昼に活動しているクラブのかたに声をかけると、入れ替わりもありつつ総勢24人のみなさんが帰り際に立ち寄ってくれました。

「わたしにとって公民館は…何？」という問いかけに、「楽しい場所です」「心のよりどころです」「知的活動の場です」などのポジティブな答えが返ってきました。でも初めは、公民館は敷居が高いと思う人も多いそうです。だからこそ、たくさんの人に公民館に来てもらう仕掛け作りや、新しい人を温かく受け入れるクラブの雰囲気作りが必要なのですね。

そして、クラブの雰囲気はメンバーの気持ちや態度次第で、いいものにも悪いものにもなるということです。「うちは初めての人もすぐに打ち解ける雰囲気があるよ」「クラブの内容よりもクラブ員どうしが仲良くなることが大事！」と言うみなさんが頼もしく感じられました。他にも、新しい人が入った時のレベルの差をどうやって解消しているか、公民館で学んだことをどんなふうに地域に還元しているかという内容でいろいろな意見が出ました。

普段はあいさつする程度であまり話をしない人たちとも話せるのが、この「しゃべり場★カフェ」です。また、利用者と職員がお互いのことを知るきっかけのひとつでもあります。この場を大切にしながら、これからもたくさんのかたとつながっていける公民館でありたいと思いました。

浜手ロビーしゃべり場★カフェ

6月15日(木)2時半～4時 浜手ロビー 参加者10人

午後のクラブが終わる頃を狙って「浜手しゃべり場★カフェ」を行いました。あらかじめこの日に活動のあるクラブにはチラシと村田先生からの4つの質問（私にとって、私たちにとって、みんなにとって、公民館は●●です。そのために、公民館をもっと●●です。）を書いた用紙を配付し、カフェに参加できない人たちにも書くことで参加してもらいました。



最初の質問である「私にとって公民館とは・・・」には、参加者からは「集いの場」「憩いの場」「学習の場」などの発言がクラブの様子と共にでました。そこから突っ込んで「現状でなにか悩みや問題はないですか？」と聞いてみると、クラブの存続や運営、部屋の使用料、公民館まつりや、利用者連絡会のしくみについてなど問題点や悩みがでてきました。参加者の中には他館を利用している方も複数いて、各館の特色についても興味深い話が聞けました。

悩みは尽きない、でも公民館があって良かった。そんな話も複数聞くことが出来ました。今年の公民館大会（仮称）には前回から積み上げていったものが大会になればよいのに、またこのような小さなカフェ（話し合う場）から聞ける、素敵な話、貴重な意見をひとつひとつ丁寧に拾い上げることも大切なことだなあと感じました。



しゃべり場★公民館とは



平成24年3月に開催された3連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者・職員の立場関係なく『公民館』を語るどころから始めよう！と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。



しゃべり場★REPORT

H29.3 発行
No. 25

<お問い合わせ>

中央公民館 433-7222

浜手地区公民館 431-0926

山手地区公民館 446-0090

平成28年度の「しゃべり場★公民館」は、実行委員として貝塚公民館大交流会に参画することを中心に活動してきました。今回のレポートは、大交流会の様子やそこで出た意見などを掲載します。大交流会に参加した人も、参加していない人も、各クラブ・団体の話題にしてくださいね。

2月25日（土）貝塚公民館大交流会（第5回貝塚公民館大会）終了！

2月25日（土）山手地区公民館で貝塚公民館大交流会（第5回貝塚公民館大会）が開催され、3公民館の利用者を中心に178人の参加がありました。「公民館大会って何をするの?」「難しそうで参加しにくいなあ」という今までの声をもとに、今回は「わかりやすく、参加しやすい」大会を目指して実行委員が話し合いを重ねました。“いろいろな人と知り合いつながること”を目的とし、名称も「貝塚公民館大交流会」に変更しました。



オープニング では...

地域活動を盛んに行っているクラブの紹介を兼ねて、ハーモニカ・アンサンブル「アンダンテ」(浜手)の演奏で幕が上がり、沖縄三線あかばな(山手)の演奏に合わせて会場参加者も一緒に歌ったり踊ったりしました。



分散会① では...

7~10人の19グループに分かれて、手作りの名刺を交換しながら自己紹介をし、自分の所属クラブ・団体の良いところを出し合いました。名刺に書かれた趣味や出身地の話で盛り上がり、持ち時間（1人3分）では足りない人も。世代や活動の違う人と知り合う機会になりました。



【名刺】

(所属公民館) ・ 浜手 ・ 中央 ・ 山手

(クラブ・グループ・講座名) _____

(氏名) _____

(クラブ・グループ・講座のいいところ)

(生まれた出身地) _____

(趣味・今はまっていること・関心のあること)



各団体の状況・困りごと

■クラブ・団体の活動について

- ・人数が少なくなった、メンバーを増やしたい
- ・もっといろいろな人に知ってもらいたい
- ・使用料がかかってきて継続が難しい
- ・公民館までの交通手段が不便で高齢化に伴い続けられない
- ・講師がいないと活動できない
- ・講師中心になっている
- ・「来れる時に来ればいい」だとイベントに参加しても会議には来ない
- ・女性主体で楽しいが入ってきた男性が続かない
- ・人数が多いとクラブ内でグループができてしまう、名前が覚えられない
- ・初心者、新しい人が入りにくい
- ・初心者に一から教えることが難しく新しい人を受け入れづらい
- ・年齢差があり活動内容がまとまらない
- ・他館の同じ活動クラブと交流したいがなかなか難しい
- ・活動の成果を発表できる場が少ない
- ・活動場所の確保が難しい（広い部屋と鏡が必要）
- ・入部（空き）を待ってる人がいる
- ・組織率の低下
- ・世話役の養成が必要、後継者を育てたい
- ・新しいクラブを作る



解決策を考えましょう

■PR

- ・活動日を知らせるポスターを作り館内に貼り出す
- ・活動をオープンにする、クラブ体験をする、いろんな場所で作品展示、発表会、公民館まつり、広報
- ・クラブ案内などを人目に触れるところに置く
- ・出張講座をする
- ・友達・知人に声をかける

■新しい人に対して

- ・入りやすい仕組みを作る（初心者向けの講座→クラブへ入部）（活動前 30 分ほど事前練習に付き合う）
- ・皆が気にかけて声かけなどをしてあげる（疎外感が薄れるように）
- ・講師の先生に来てもらい、指導してもらってはどうか

■クラブ・団体内でのコミュニケーションづくり

- ・クラブ活動以外の楽しみ（新年会・カラオケ・花見など）を作る
- ・顔の見える関係性、助け合える関係性を築く
- ・悩んでいることは遠慮せず伝える
- ・来たり来なかったりする人への声掛け、情報交換が必要
- ・グループができるのを黙認せずグループ同士を混ぜる
- ・普段からしゃべること笑うことを意識的にする（コーヒータイムでしゃべりやすい雰囲気づくり）
- ・公民館活動を考えたり理解する場をもつ

■その他

- ・講師が不在でも活動できるよう録画やメモを用意する
- ・クラブや団体間のコラボ・交流をし、他クラブ・他団体とのつながりを増やす

各団体の状況・困りごと

■委員・役員について

- ・役員が回ってくると辞めていく
- ・役員になると会議や行事で忙しくクラブ活動が殆どできない
- ・委員の仕事量が多い
- ・委員決めを順番にしても条件的に難しい人に当たる時どうしたらいいか

役員…協議会・連絡会を運営
委員…定例会に参加。クラブと協議会・連絡会とのパイプ役

解決策を考えましょう

■委員・役員の負担軽減

- ・役員（委員）が初めての人と経験のある人を混ぜる（ペアにして担当する）
- ・役員の人数を増やす

■協力・理解

- ・役員同士で大変さを共有し、協力し合う
- ・しんどいことはしんどいと言合える関係づくりをする
- ・「やってみたら良いことがある」「自分に得るものがある」を伝える
- ・誰にでもできる、負担にならない仕事内容であることを理解してもらう
- ・周りがサポートする体制作り、みんなが関わる

各団体の状況・困りごと

■会議について

- ・定例会が負担
- ・夜間の会議が多い・長時間
- ・定例会等、毎月必要かどうか
- ・会議の雰囲気重苦しい

解決策を考えましょう

■会議のやり方を工夫

- ・仕事のある人、高齢者も出席しやすいよう会議を昼と夜の二部制にする
- ・報告方法の改善（報告のみであれば紙でもよいのでは）
- ・会議の必要性を考え、必要な部分のみ残す
- ・定例会の前にクラブ紹介（発表）をする
- ・意見を言いやすい雰囲気を作る
- ・協議会って何のためにあるのかを考える・伝える

■クラブ・団体内での工夫

- ・定例会に出る人・会計など複数で助け合いながらしている
- ・会議には出席できる人が出るなど、クラブ内で工夫する

みなさんのクラブ・団体で同じような困りごとがあれば、是非参考にしてみてください。
ひとりで悩まずにクラブ（団体）のみんなと悩みを共有して解決していきましょう！



分散会② では…

新たなメンバーで「無理なく公民館活動を続けるコツ」をテーマにグループトークを行いました。クラブや団体・公民館活動での困りごとや悩みを出し合った後、それらの解決方法について意見交換をしました。

その後再びホールに集まり、6つのグループから話し合った内容を発表してもらいました。《裏面に全てのグループの意見をまとめたものを掲載します》



最後に…

大交流会の締めとして、和歌山大学教授の村田和子先生に公民館の歴史や公民館をとりまく全国的な状況などの話をさせていただきました。また「貝塚公民館では、今日のように集ってお互いに知恵を伝授し合って改善につなげよう、良い方向を目指していこうとする交わりがある。また、異世代・異分野の人たちが地域の中で多様に集う空間としての役割を果たしている。」「公民館は楽しいことを一層楽しくする拠点であると同時に、地域にある課題を持ち寄り、それらについてどうしたらいいか考えたり、具体的に知恵を出したり、取り組んだりする場である」という話がありました。

結びとして「今日はすでに関わっている人達が公民館の魅力を再認識する機会であったが、今求められているのは外に向けていかに発信するか。公民館の魅力を理解してもらうために、“私にとって” “私たちにとって” “みんなにとって” 公民館がどういうところか、またそのために公民館をもっとどうしたいかを考えて欲しい」とのメッセージが送られました。



みなさんも一度考えてみてください

私にとって公民館は〇〇です

私たちにとって公民館は〇〇です

みんなにとって公民館は〇〇です

そのために、公民館をもっと〇〇です

29年度の「しゃべり場★公民館」は、大交流会で出た課題やみなさんの意見をもとに、1年間活動していく予定です。開催日は事前にお知らせしますので、気軽に参加してくださいね。

しゃべり場★公民館とは



平成24年3月に開催された3連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者・職員の立場関係なく『公民館』を語るころから始めよう！と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。



今年のテーマは、ズバリ「公民館」
公民館の必要性を学び、発信する

平成27年10月から貝塚市の社会教育施設（各公民館・青少年センター・ハート交流館・総合体育館）の利用に関する制度が一部変更となり、公民館では社会教育法第20条の目的に沿った自主活動をする団体（クラブ・サークル）についても使用料の一部負担が必要となりました。

そこで、今年度の「しゃべり場★公民館」は、この機にあらためて「公民館について、さまざまな角度から語り合おう！」という趣旨で開催しています。

3月10日 公民館の使い方変わったけどいかが？

参加者10名（累計延べ人数：936名）

2月13日に終了した第4回貝塚公民館大会（詳細は裏面参照）。参加者同士で話し合う「おしゃべりTIME」で話したりなかった人集まれ〜と呼びかけて、平成27年度最後のしゃべり場を開催しました。テーマは「公民館の使い方変わったけどいかが？」とし、公民館の利用制度改正から約半年経った今の様子や、利用者の声が話題になりました。

定例会等で聞かれた利用者の声より

・会費は先生の謝礼になっていて、部屋代は会費と別で徴収されている。クラブもカルチャー化していて、先生もボランティアだと思ってくれない。クラブをやめたいが、自分がやめることで他の人に迷惑がかかると思い、クラブに行くのが重荷になっている。クラブ内でもいろんな考え方の人がいて、話し合いができない。

- ・クラブ員の人数が減っているところは部屋代が負担になってきている。今は繰越金でやれているが、いずれ無くなってしまいうので、会費を上げていかないといけなくなってきている。
- ・午後の時間帯が利用しにくい。時間単位での料金設定はできないのか？
- ・一部有料化して半年。今は大丈夫でも続いていくとどうなるかわからない。

- 
- ・こういう話をもっと定例会の中でやっていって、互いのクラブの現状（課題）を知ることが大事じゃないかな？
 - ・クラブの課題を共有する場の設定を三館利用者連絡会でできればいいけど、しゃべり場で課題解決の勉強会や考える会ができればいいなあ。
 - ・クラブだけじゃなくて、他の利用者団体も含めて考えていくべきじゃないかな？
 - ・今は無料の子育て関係メンバーも、他の利用者団体の状況を知っておくべきだと思う。困っている人が集まって、悩みを出し合う、共有し合うことは必要。
 - ・多人数の前だと意見を出しにくいから、少人数のグループで話し合える場・意見を出し合える場を定例会で設定できればいいなあ。



など、様々な意見が出ました



2月13日(土) 第4回貝塚公民館大会

貝塚公民館は学びの万華鏡 楽しみいろいろ 暮らし彩る 学びの場

2月13日(土)、山手地区公民館ホールにて第4回貝塚公民館大会を開催しました。(参加者 145 人、保育 10 人)

公民館大会実行委員会が中心となり、昨年9月から準備を始め、今回は基調講演のほか、公民館で活動する人たちの気づきや成長を聞き合うパネルディスカッションや、参加者が感想や日頃思っていることなどを話し合う「おしゃべり TIME」を設けました。



また、しゃべり場からは、1年の活動報告をするともに、活動のまとめであるリーフレットの紹介や拡大版を展示しました。



リーフレットは各館にありますぜひご覧ください

写真でみる公民館大会



パネルディスカッションの様子



コーヒーコーナーの様子



保育室の様子



ひとことメッセージ



しゃべり場展示コーナー

しゃべり場★公民館とは

平成24年3月に開催された3連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある! それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者・職員の立場関係なく『公民館』を語る場所から始めよう! と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。



今年のテーマは、ズバリ「公民館」
公民館の必要性を学び、発信する

平成 27 年 10 月から貝塚市の社会教育施設（各公民館・青少年センター・ハート交流館・総合体育館）の利用に関する制度が一部変更となり、公民館では社会教育法第 20 条の目的に沿った自主活動をする団体（クラブ・サークル）についても使用料の一部負担が必要となりました。

そこで、今年度の「しゃべり場★公民館」は、この機にあらためて「公民館について、さまざまな角度から語り合おう！」という趣旨で開催しています。

12月8日 役員って必要なん？「いま話しておこう、役員のこと」

参加者 22 名（累計延べ人数：926 名）

主に現役（OB）役員・クラブ委員・グループの代表が集まって、三館それぞれの協議会の良いところ・困っている事などを出しあいました。思いを出しあい、情報交換をすることで、協議会活動の意義やより良い運営のあり方を探る糸口が見えてきました。



役員之苦労話あれこれ・・・

- ・自分が所属しているクラブは協議会への理解が全くない。役員と委員の違いも分かっていない。
- ・中央は会議が多すぎる。毎月まつりの会議があった。（まつりの半年以上前から会議がある）
いろいろなことが役員任せになっている。動員もすべて役員や委員任せ。古くからいる人達ほど、「昔やったから」と手伝ってくれない。クラブの人の協力が残念。

・各部会に人数はいっぱいいても、手伝ってくれるのは 1 人～2 人で全て役員がやることになる。クラブ内での理解も全くない。役員は楽しかったけど、体力的にキツイので二度としたくない。行事が多くて会議が大変だったけど、自分に関係のない行事の会議にも出席して、知識も増えたし友達も増えて自分にとってプラスになった。役員を引き受けるには家族の理解が必要。

「1人ではなく、みんなでやるよ」と言ってもらえたから頑張れた

- ・いろいろな人と知り合えて良かった。それが一番。
- ・役員の仕事自体は嫌じゃない。みんな和気あいあいと活動していて、特に大変だったと感じることはない。1 度会議に出ると 1 つは得るものがある。自分が役員を続けていくのは負担ではないが、この楽しさをみんなに経験してもらいたいと思う。役員というと反射的に拒否されるのを何とかしたい。
- ・子育てネットワークの副代表を 3 年し、今は代表になって 2 年目。自分ではできないと思ったけれど、周りの人に「自分 1 人ではなくみんな

んでやるよ」と言ってもらえて、できるかなと思えた。大変なこともあるけど達成感を味わえる。役員になって会議に出るからこそ、いろいろな人と出会えた。

・プレイパークやアリサ上映会実行委員会で委員長を引き受けている。仲間がいて幸せ。

・会議にできるのはしゃべりたいから。役を引き受けないのはメリットがないからかな。そこに楽しさ・やりがいを感じられたらいいのかな。（子育てネットに所属していて）押し付けではない意見の共有の場が心地よい。

■高齢者が多く、平日昼間中心の会議になってしまっているので働いている人は役ができない。

⇒中央：平日夜か土日に定例会を行う。

⇒山手・浜手：夜は出にくいとの意見から、山手は平日の昼間と夜に、浜手は基本土曜もしくは日曜の午前と夜に2回行うようになった。夜に行う定例会は、役員は1～3名が出席。昼間に行った会議の報告会としているが、意見を聞く場合もある。

■定例会が形骸化している。連絡事項だけだったら、会議はいらない。

⇒定例会は「困っていることを拾い上げる場」、「問題点を一緒に考える場」、「提案や協議する場」にするべき。

⇒連絡事項も読み上げがあるから耳に残る。書かれた書類だけ渡されても、読まないし理解できないし、伝わらないと思う。

■会議をしても意見がでない。言われた通りにしますという感じ。

⇒「〇〇さんどうですか？」と個別にあてて聞いてみると意見がでる。

■女性や高齢者ばかりで大掃除が大変。クラブ員だけが掃除をするのも不満を感じている。

⇒話し合ったり相談する場がないことが問題。このような問題こそ定例会で話し合うべき。

■各部会の部長は役員会に出ない為、役員会との意思疎通が上手くいかないことがあり困ったことがある。

⇒山手は部会議終了後に、部長・副部長・役員で集まり情報を共有している。

■役員が嫌で辞めてしまう人がいるということは、入部時に（公民館クラブには役があることの）説明が足りていないのかな。入部時にいろいろと言うと引いてしまう人がいるかもしれないので、「みんなでしましょう」とやんわり伝えたらどうか。役をやって良かったと思っているなら次の人に伝えていかないと。それぞれの得手不得手があるから、みんなで一緒に手を組んでやれる方法を見つけていくことが大切。

■時間がかかっても話し合うことや目的を出しあう事、共有することが大事。それを重ねていく。

■クラブ委員の会議の参加の仕方として、基本的に行く人とその人が行けない時に行く人を決めてフォロー体制を作っておけばいいのでは？経験者と新しい人という組み合わせもいいと思う。

■クラブだけでなくボランティアや子育てサークルなど、公民館利用者全員が顔を合わせる機会があればいいのに。

クラブ



協議会役員をして知ったこと（中央公民館所属クラブ員Fさんより）

入部して4年目にクラブ内の役員に当たり、その年は偶然、協議会役員を務める年でした。クラブ内の役員もはじめてですし、クラブ協議会という運営サイドの役員は私にとって未知のものでした。何もわからないまま新旧役員会に参加し書記と広報の仕事を担当することになりました。二年間の役員任期を終えた感想は「思っていた以上に楽しかったな」ということです。私がこの二年間にとくに感じたこと、知ったことを三つお伝えしたいと思います。

1番目は公民館には本当にたくさんのクラブがあり、たくさんの人達が集まっているということです。小さな子供さんから高齢の方まで文字通り老若男女が生き生きと楽しそうに活動しています。2番目はクラブ協議会の役割、それをサポートして下さる職員の方々のこと。正直なところ職員のかたを全然知らなかったですし、他のクラブのかたと話をすることすら無く三年間公民館に通っていた私に一気にたくさんの人達と話をする機会が増えました。毎年行われる公民館まつりも、ただ舞台に出演するだけだったそれまでの三年間とは大きく変わりました。3番目に知ったこと

は、何事も出来る事なら積極的に参加した方が楽しいという事です。バザーやその他のクラブ協主催の行事に対する気持ちも一変しました。なぜなら、どんな行事でも担当役員さんや担当委員さん、サポートして下さる職員さん、協力して下さる各クラブ員さん、皆さんが一生懸命その行事を盛りたてようとしているのを目の当たりにしたからです。「自分も出来ることで協力しよう」そう思いました。

まだまだたくさんのお話を聞いてもらっていますが結果としてクラブ協議会の役員をしたことは私にとってはいい思い出となりました。いっしょに役員をした方々とは今もお友達として交流しています。大きな収穫です。社会人になってからの50年間このような役割から逃げていた私でしたが「一生に一回位そういう事もしたら？」と後押ししてくれた娘の言葉もあって頑張りました。役員としては未熟なままの卒業でしたが、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。皆さんも積極的に参加して頂きたいと思います。



しゃべり場★公民館とは

平成24年3月に開催された3連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者・職員の立場関係なく『公民館』を語るころから始めよう！と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。



今年のテーマは、ズバリ「公民館」
公民館の必要性を学び、発信する

平成 27 年 10 月から貝塚市の社会教育施設（各公民館・青少年センター・ハート交流館・総合体育館）の利用に関する制度が一部変更となり、公民館では社会教育法第 20 条の目的に沿った自主活動をする団体（クラブ・サークル）についても使用料の一部負担が必要となりました。

そこで、今年度の「しゃべり場★公民館」は、この機にあらためて「公民館について、さまざまな角度から語り合おう！」という趣旨で開催しています。

公民館の学びを地域へ「地域活動ってどんなの？」

11月9日（月）13時～ 場所：中央公民館・創作室

「公民館の必要性を学び、発信する」ためには、まずしゃべり場を知ってもらわねばならない。という視点から身近なテーマで開催し、そこで「公民館で活動することや、協議会に所属して活動することの意義」を伝えていきたい、との思いから今回のテーマを「地域活動ってどんなの？」としました。

実際に活動で地域へ出て行っているクラブや団体、行けないクラブや団体の理由、感想やアドバイスなど、いろいろな話ができました。

参加人数は22名。中にはクラブの途中で抜けての参加も！



- 地域へ出ていき、見てくれている人たちの姿を見て「がんばろう」という気持ちになる。
- 地域にでかける（ボランティア活動をする）ことをクラブの規約に載せた。
- 働いている部員でも地域活動を続けられるように「行ける時は行く、用事のある時は休む」ようしている。
- 今年初めて地域から依頼があり出かけた。再度来てくれとのリクエストがあり、また行く。
- 仕事を持つ部員がいるので行ける曜日が限られ断ることが多いが、行くと来年の予約をもらってくる場合も多い。
- 最初は「せっかく練習したから発表したい」と思って出て行った。そのうち回数が増え、出ていくために練習するようになり、ちょっとイヤになった。そこで「地域活動用のパーティ」を決めた。すると出ていくことが苦にならなくなった。
- 訪問先でそのクラブを知り「やりたくて仕方なかった」と退職後入部した人がいる。
- 地域からの依頼は基本断らない。行ける人で工夫しながら行っている。

- 他のクラブとコラボで出ていくことってありかな？]デ イトしてくれる所・人がいればなあ。
- 講師の許可がないと他の活動（地域へでけたりなど）ができないクラブもある。それ（許可をもらうこと）が当たり前と思っている人もいる。クラブは講師のものじゃないのになあ・・・公民館から講師に話をして理解してもらうことできないのかな・・・
- 絵画や書道のようなクラブもタイミングややり方で地域へ出かけることもできそう。
- 部員が減っている、新しい人が定着しにくい中で、地域活動することまで考えられない。
- 役員にあたるとクラブをやめる人がいる。それで廃部になるかもしれない。
- 人数が減ると演奏活動が難しくなり、人がたりない時はクラブ外の人に手伝いにきてもらったりしている。
- 新しい部員が入ってもレベルの差があり、長続きしない。そこで、新しい部員用に別の練習日を作り、そこである程度レベルを上げてから、クラブへ入部する手続きを取ったら、数名入部した。
- 何度も役員をしている。夜の会議は出にくい。

「こんな話を(クラブの)定例会や、もっと多くの人とできたらいいのになあ・・・」

今回の「しゃべり場」に参加してくれた
クラブ・団体の一言PR

そんな一言をうけて「クラブに入ると良い事もあるけど、役員や会議はめんどくさい」という意見がでました。会議の負担、家族へかける迷惑、クラブに集中できないもどかしさ、といった意見がでる反面、役員をして大変さを知っているから協力的になれる、いろんな人との出会い、達成感があるなど、良かったことの見聞もでました。

また、協議会行事に参加した人からは「横の繋がりができるのは良い事。これは協議会に入っているからこそ。これからは繋がりを作っていかないと！やはり一人はさびしいもの」という意見や、今回参加して各館の役員事情を聞いた人からは「三館それぞれの協議会の運営方法や良い所、変えた方がいい所を出し合って、イイトコ取りをすればもっと良い運営ができるのではないか？」という意見がでました。

そこで、次回12月8日のテーマは「役員って必要なん？いま話しておこう、役員のこと」として思っている事を出し合おうということになりました。

2月13日(土)午後1時から4時
山手地区公民館・ホールにて
第4回 貝塚公民館大会開催！

大正琴コスモスサークル(中央)

お年寄りがするものと思われがちですが、いろんな曲が演奏できるし、楽譜が読めなくても大丈夫ですよ。

遊び隊(中央)

おもちゃのアイテムは40種類！年間45～60回程度出かけています。今日も新しい所(訪問先)を開拓してきました！

人形劇あひる(中央)

子どもたちとふれあいながら楽しんでやっています。腹話術・エプロンシアター・パネルシアターもやっています。

沖縄三線あかばな(山手)

ボランティアの依頼は断らないのが前提。三線は聴くんじゃなくて、一緒に歌って、踊りましょう！

ハーモニカ・アンサンブル・アンダンテ(浜手)

ボランティアの依頼は断らない主義のクラブです。初めての人でもサポートします。

貝塚ハーモニカクラブ(中央)

ハーモニカはどこにでも持って行ける、歌うように演奏できます。

HIPHOP チェケラッシュ(中央)

「あんな風に踊りたいけど自分には難しいかな・・・」とおもっている人も楽しく一緒にダンスしましょう！

4回目の公民館大会のテーマは、前年の「公民館ってこんなところ～公民館はカルチャーセンター？～」を開催した時の長澤成次氏の基調講演でのいろいろな話を思い出し、話し合いをした結果『貝塚公民館は学びの万華鏡』と決まりました。右の写真は実行委員会のような様子です。利用者・職員共に大会に向けての話し合いが何度ももたれています。今回の基調講演は細山俊男氏(元所沢市教育委員会社会教育主事 明治大学非常勤講師)をお迎えし、パネルディスカッションとおしゃべりTIMEをする予定です。みなさんの参加をお待ちしております。



しゃべり場★公民館とは

平成24年3月に開催された3連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者・職員の立場関係なく『公民館』を語るころから始めよう！と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。



今年のテーマは、ズバリ!!!「公民館」

平成 27 年 10 月から貝塚市の社会教育施設（各公民館・青少年センター・ハート交流館・総合体育館）の利用に関する制度が一部変更となり、公民館では社会教育法第 20 条の目的に沿った自主活動をする団体（クラブ・サークル）についても使用料の一部負担が必要となります。

そこで、今年度の「しゃべり場★公民館」では、この機にあらためて「公民館について、さまざまな角度から語り合おう！」という趣旨で開催します。

10 月からの一部有料化について 3 館利用者連絡会の役員やクラブ員とのしゃべり場

7 月 14 日（火）19 時～ 場所：中央公民館・講座室

10 月から使用料の一部有料化が決定し、7 月に入り使用料を払う手続きが各公民館で始まりました。

それに伴い、申請書も大幅に変更しており記入に戸惑っている役員さんたちもいるようです。

今回は各公民館の協議会役員の方をはじめ、クラブ員の方も参加し、有料化について思うことをざっくばらんに「しゃべり場」で語り合ってもらいました。



夜にも関わらず、参加人数 25 名

3 館利連の役員、クラブ員、しゃべり場世話人合わせて 18 名と職員（3 館長含む）7 名の 25 名が集まりました。

これは、ここ最近では一番の参加人数です。夜の時間にもかかわらず子どもを連れて参加してくれた人や前日の夜も会議だったにもかかわらず参加してくれた人たちもいて、「有料化」について関心の高さを感じました。

しかし・・・「どう思ってますか？」には

・他の場所を借りたら、もっと高い料金とわかっているのだから、これぐらいなら・・・というのが正直なところ。

・（山手）ホールを使うところは困っていると聞いている。（自分のクラブは大丈夫）

・まだ（有料化が）はじまってすぐなので実感がないのでは？ただ、同じ高齢者でも公民館は有料で福祉センターなら無料というなら、高齢者は福祉へ行け！というのか？そこに人が流れたら「公民館活動って何だろう？」と思う。

・子育てグループでは「私たちは（無料で）良かったね」ではなく「次は私たち?!」と危惧している。100 円でも子育て中の親にはきついものだから。

・今回のことでいろいろ学んだ。自ら学び「耳と目をふさがれないようにしよう」と思います。

・少々の負担は仕方ないとクラブ員が多い。

公民館の実力を PR するには？

・「公民館に来る人たちは元気な人たち！」ではなく「公民館に来たから元気になった！」という人もたくさんいる。

・時間はかかるが「公民館に来て楽しいね」の積み重ねで気づくことがたくさんある。だから敷居は低く、誰でも来れる公民館が必要。

・地域の人を受け入れる懐の深い場でないとダメ。理屈っぽい話ばかりといったアプローチの仕方を間違えたら人は去っていく。

その他たくさんの意見がだされました。

しゃべり場については「敷居がたかい」や「知られていない」といった意見もたくさん出ました。

今回の貴重な意見をしっかりと受け止めて「これから」に生かしたいと思います。

3館連続講座の報告

7/2「減災と公民館・笑って減災なます流」
たかしま災害支援ボランティアネットワーク「なます」

連続講座のはじまりは〈浜手〉からです。
公民館が掲げる「つどい・まなび・つながる」の
つどいと浜手という地域だからこそ**防災**に重点
をおいた「誰もが参加しやすい講座」をめざして
7月2日（木）午前10時～12時に行いました。

当日は高齢者から子育て中の親子約60名が参
加し、ホール出入り口周辺には子どもの遊ぶスパー
スを作り、子どもに目を配りつつ受講できるような
工夫もしました。

講師の方たちが「次に貝塚にはいつ来れるかわか
らないので・・・」とたくさんの防災情報とつなが
りの大切さを伝えていただき、当初予定していた高
齢者と子育て親との交流の時間が無くなりました
が、とても身近で具体的な話が多く、人形やロール
紙芝居などを活用し、わかりやすい内容でした。



感想には「日頃から地域の方とのふれあいを大事に」「公民館はほかの人たちとのつながりに大切な事を改めて感じた。」などと書かれてありました。

7/16「THE 公民館 ～市民にとっての公民館」

連続講座2回目は〈山手〉です。

山手では活動協議会の協力を得て、助言者には元
公民館運営審議会委員長の浮穴正博氏をお迎えし、
利用者同士で2つのテーマ「公民館のいい所・悪い
所」「人生を豊かにするには？生涯学習って？」につ
いて意見交換をしました。

短い時間でしたが、クラブ員だけでなく子育て中
のママや地
域の利用者
の方も一緒
に話をし、
たくさんの
意見が出ま
した。



【以下、出た意見。一部抜粋】（テーマ：公民館の悪い所）
宣伝不足／公民館で何をしている？とたずねられる／
毎年同じような講座を繰り返している／若い人の参加が
少ない／（テーマ：人生を豊かにするには？生涯学習
って？）「学び」と「実践」のキャッチボール。どちらか
だけではだめだと思う／いくつになっても好奇心をなく
さない。新しいことにチャレンジ／知らない人との出会い
が大切。教えられることがあるはず。色々な刺激を受け
てよいと思う。 など。

8/10 地域づくりは公民館から～人が輝く公民館とは～

連続講座最終回は〈中央〉です。岡山市立上道公民館から利用者
と職員にお越しいただき「人が輝く公民館」をテーマにお話
をお聴きしました。岡山市公民館は日頃から、人の話に共感
し、思いを共有することでつねに市民と職員が学び合う関
係を育み、豊かな実践を積み重ねてきました。現在、公民館
の活動やよさをもっと広く知ってもらい、多くの人に関わ
ってもらいたいと取り組んでいます。「いろいろな人を巻き
込み、やるからには楽しんで」という利用者Fさんの言葉
にみなさん共感しました。後半は「ご近所トーク」。多様
な意見がでました。公民館は人や物(ごと)が繋がる場所。
人を大事にする岡山市の公民館から多くの学びがありました。

感想～一部抜粋～

●1人ではできないけれど、誰かとなら力がわいて何か
できる、それを強く感じられました。●ESDの活動…何か大
変なことかな？と思っていたが、岡山の事例を聞いて日頃、
我々が公民館で行っていることだと気付いた。貝塚の公民館
として組織化すれば今でもできることや！●ESDを知りま
した。萩原先生のお話に共感。各々の違いを持つ人たちが
集まること、そこからの学び。公民館の存在意義でしょうか。



しゃべり場★公民館とは

平成24年3月に開催された3連続講座の後、有志の間で公民館
でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的
に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用
者も一緒に考えなければいけない。利用者・職員の立場関係
なく『公民館』を語るころから始めよう！と公民館利用者と
職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加
できます。

